

ウイキョウ (*Foeniculum vulgare* Mill.) の栽培特性

戸澤一宏

Cultivation characteristics of fennel (*Foeniculum vulgare* Mill.).

Kazuhiro TOZAWA

Summary : Fennel (*Foeniculum vulgare* Mill.) is a plant for which the seed is used as a Chinese medicine (pharmacopeia publishing). Moreover, the herb that is called fennel. The fennel is grown in the examination, the amount of growth and amount, etc. are measured, and it has aimed at making the cultivation indicator of the fennel.

要旨 : ウイキョウ (*Foeniculum vulgare* MILL.) は、種子を漢方薬 (薬局方掲載 生薬名 茴香) として利用されている植物である。またフェンネルと呼ばれるハーブでもある。本試験ではウイキョウの栽培を行い、成長量・収量などを測定し、ウイキョウの栽培特性を調査した。

1 はじめに

ウイキョウ (茴香) はセリ科ウイキョウ属の多年草で、その種子を芳香性の健胃薬、去痰薬として漢方治療に用いられている (Fig.1)。種子を用いた薬用酒では、香りのよい食欲増進効果があるものとして利用されている。また、フェンネルとして有名なハーブでもある。種子を香辛料として利用するだけでなく、葉を魚料理やサラダの香り付けにも利用されているなど利用価値はきわめ



Fig. 1 ウイキョウ (茴香)

て高い植物である。しかし、フェンネルは個人栽培による自家消費や輸入がほとんどで、薬草栽培としての日本でのデータは少ない。

本研究では、ウイキョウの種子からのウイキョウの栽培を行い、薬用植物としてのウイキョウとハーブとしてのウイキョウについて栽培特性の検討を行った。

2 試験方法

2.1 ウイキョウの発芽率

ウイキョウの種子は、精油含有量の高い系統を東邦大学より提供されたものを用いた。種子を育苗トレイに播種し、発芽率を検定した。

2.2 ウイキョウの栽培および収穫

発芽したウイキョウを、増穂町最勝寺の山梨県森林総合研究所の圃場に定植し、成長量を測定した。2および3年目の7月に葉の収穫を行い、生重量を測定した。また、種子についても3年目の9月~10月に毎週収穫を行い、1株あたりの総収穫量を求めた。

3 結 果

3.1 ウイキョウの発芽率の測定

Table1 にウイキョウの発芽率を示す。

Table1 ウイキョウの種子発芽率

播種日	播種数	発芽数	発芽率(%)
4月15日	50	48	96.0
5月15日	50	47	94.0
6月15日	50	48	96.0
平均	50	47.7	95.3

いずれの場合もウイキョウの発芽率はきわめて高く、95%以上の発芽率が得られた。

3.2 ウイキョウの栽培および収穫量の測定

Fig.2 にウイキョウの草丈の成長を示す。

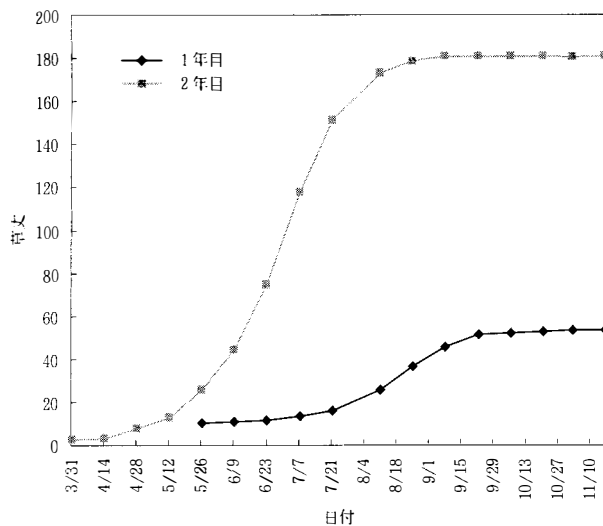


Fig.2 ウイキョウの成長曲線

ウイキョウは宿根性草本のため冬に一度地上部は枯れるが、翌春再び成長する。2年目には収穫が可能になるほど成長した。

2年目には開花し、結実も確認された。成長が7月後半で頭打ちとなっているのは花芽に分化後、出蕾により栄養成長が止まるためである。草丈は開花後伸びていないが、腋芽から次の芽が成長し、株として成長は初秋まで続く。



Fig.3 ウイキョウの開花



Fig.4 ウイキョウの種子

ウイキョウの種子の平均収穫量を Table2 に示す。

Table2 ウイキョウの種子の収量 (g/株)

日付	6月	7月	8月	9月	10月	年間合計
2年目	0.00	1.21	2.13	1.81	1.38	6.53
3年目	1.32	2.52	3.64	3.61	2.62	13.71
4年目	2.62	5.14	8.12	9.31	6.26	31.45
合計	3.94	8.87	13.89	14.73	10.26	51.69

これによると収量のピークは9月で、収穫時期は比較的長く、生産効率も高いことがわかる。Table3 に葉の収穫量を示す。

Table3 ウイキョウ葉の収量 (g/株)

日付	6月	7月	8月	9月	10月	年間合計
2年目	0.20	0.51	1.20	0.40	0.00	2.31
3年目	0.74	1.22	2.65	1.10	0.00	5.71
4年目	0.81	1.36	3.12	1.41	0.00	6.70
合計	1.75	3.09	6.97	2.91	0.00	14.72

4 考 察

以上の結果から、ウイキョウは種子を利用する薬草だけではなく、葉部をハーブとしても利用可能な有望な植物であることがわかった。また、植物としてのウイキョウは、草勢は旺盛で雑草にも強く、繁殖力も旺盛であった。取り残した種子からの発芽もあり、畑一帯がウイキョウになってしまう場合もある。他の植物を近くに植える場合は、このことも考慮に入れ、圃場を作る必要がある。また、今回は薬用利用に当たっては重要である精油含有量について、測定できなかったが、今後多系統のウイキョウで比較することも必要である。